

## <製品はさりげなく>

コロナ禍により展示会では中止、又は“危険なので製品だけ貸して”が現状。そんな事情からか以前には無かった事が。時折「仕事ありませんか？」と職人と思しき人が訪ねてくる。展示をざっと見て退出。当初は意味が感じ取れず、いぶかしく思っていたが次第に気付く。これは自分には創れない、と感じての無言の退出だったのか、と。現在加工依頼先は一人。(そ



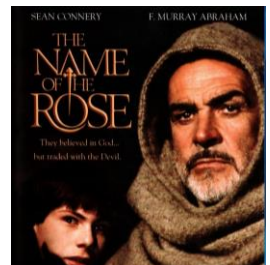
の他は研磨、穴あけなど)。技術は高い。時折、石と画を見せ、どう作るかを聞くと楽しそうに創りのあれこれを教えてくれる。しかし、注意しないと良かれと思って凝りすぎた創りになることがある。製品はあくまでも“さりげなく”が大事。

ネックレス部分 (K10) 左右は金色と白色  
トップのブルートパーズは固定。片方のくるくるの先はブラでルチルとロードクロサイト

## <不可解なことに魅かれる>

解らないことには関心を持たない人は多い。シマダは反対に意味不明なものはその意味を知りたくなる。以前“カッコイイ”と思っていたイギリス人俳優ショーン・コネリーが出演しているとの事だけで見た映画。

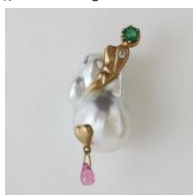
“薔薇の名前”というそのタイトルからして意味不明。映画が終わっても何故そのタイトルなのか、何を言いたいのか理解不能。14世紀初頭、北イタリアの寒村に一人の修道士が赴任。その寺で奇怪な死が続く。修道院の一室に“触れてはならない本”なるものがあり、その本に触れた者が次々死んでいく。薔薇とも関係なさそう。当時の宗教のあり方も知らないが、映画の伝えたいことが未だ理解不能。映画の原作本を書店で目にして立ち読み。紙面は字だけで埋め尽くされ、辞書状態。追求する根気のなさを自覚。



## <友人からの叱咤>

「この間読んだ本がね…」と話し始めた時の事。「楽しく本を読むのもいいけど、今の在庫を早くなんとかしないと。あなた、若くないの解ってるよね。」との言。シマダしょぼん。更に「営業ができない性質なのもよく解ってる。でも、こんなに素敵な子たちをここに眠らせておいても可哀想なだけなのよ。自分の事は自分で動かないと。」まさしく叱咤激励。

「それなら、いつもの仕事場アトリエ展示会を春には。」とまた別の人。  
“普通なら5月頃がいいけど今年はそうならない” 算命学か何かの判断。  
シマダの道は険しい。



パロックパールの  
ピンブローチ



クンツァイトの  
かわいいリング

## <三島由紀夫という人>

“市ヶ谷で三島由紀夫が割腹自殺”と友人の車のラジオの放送。「天才ってとんでもないことするのね。」と、友人の言。確かに天才。13歳で小説を書いた、という。死後、何十年になるか。それでも、近くの大型書店で三島の特集コーナーがあり、その著作の多さに驚く。かく言うシマダは、三島を読んでいない。内容が馴染めない気がする。



2月16日、友人の電話で午前家を飛び出し  
快晴の美しい富士山の姿を眺めてきました。  
山梨に住む幸せ。

\* 甲府のグループ展に参加します \*

<女性達の手仕事展> 2月27(土)～3月1日(月), 6日(土)～8日(月)  
古春堂画廊 甲府市相生3-6-30 TEL 090-3962-2410  
(新平和通りデニース隣・島田貴金属店斜め向かい)